

団体名：武澤農園 武澤 豪

所在地：徳島県阿波市

認 証：GLOBALG. A. P. (平成 28 年 12 月)

応募区分：個別経営の部

面 積：15ha

(うち、認証圃場 20a)

構 成 員：3名

取組品目：翡翠ナス

取組の紹介

- 阿波市の青年農業者グループ「GOTTSO 阿波」のリーダー的存在で、「翡翠^{ひすい}ナス」の生産振興では先導的な役割を果たし「美～ナス」という商標を取得。自らは、さらに一歩進んだ取組により GLOBALG. A. P. 認証を取得。
- GAP 取得を通じて労務管理の改善が重要と認識し、従業員に対して研修会を行うとともに、月 1 回程度、従業員との間で話し合いを行っており、従業員の業務改善の意識の高揚と強固な信頼関係を形成。農薬散布にあたっては、2 人で確認を行うことにより誤散布を防止。
- GAP を継続していくための取組として、作業日誌や防除履歴を電子ファイル管理にし、データ整理の簡素化。スマートフォン用 SNS アプリを活用し、作業指示や確認等を全ての従業員が情報共有。無理な規模拡大を自制し、高品質化に特化した効率的な営農の実施。農業用資材の適切な使用によるコスト低減により持続可能性の高い農業の実践。積極的な障害者雇用により農福連携を実施。
- GAP 認証取得を目指すメンバーに対する指導やアドバイスの実施。「GOTTSO 阿波美～ナス」として東京オリンピック・パラリンピック選手村への翡翠ナスの納入を目標としての努力が周辺の農業者等に好影響。



圃場の様子



収穫された阿波美～ナス



秀品の阿波美～ナス

団体名：農業生産法人 有限会社ワールド・ファーマーズ 面積：35ha
所在地：愛媛県宇和島市 （うち、認証圃場 35ha）
認証：GLOBALG. A. P. （平成 29 年 11 月） 構成員：7名
応募区分：個別経営の部 取組品目：米

取組の紹介

- 平成 28 年 9 月に愛媛県主催の GLOBALG. A. P. コンサルタント支援研修を受講し、認証取得に向け準備を開始。平成 29 年 11 月に水稲作では四国で初の GLOBALG. A. P. 認証を取得。
- 作付圃場をリスト化し、地図上にプロットするなどデータベース化するとともに、責任者（水稲部門長）を配置し、作付けや防除、作業スケジュールを効率的に指示できる体制を構築。
- 農薬の使用等資材の使用についても、水稲部門長が社員に適切かつ客観的な指示を出すとともに、作業員個人の独自判断とならない工夫を行うなど、資材在庫の管理等の徹底を行った結果、資材費を約 5%削減。
- GAPを取得したことから、国産農産物をテーマとした全国規模の展示商談会である「アグリフード EXPO 大阪」等に参加し、商談会においてバイヤーから好感触を得るとともに、愛媛県が主催した「カナダでの農産物紹介」をきっかけに、今後、海外展開を模索。
- 地域への波及効果として、GAPに興味のある生産者に対して機会あるごとにアドバイスを行うとともに、今後は、各種講演会や研修会の講師や県内外の視察の受け入れ先として生産者の育成に貢献する予定。



水稲の栽培圃場



倉庫の外観



リスク評価の打合わせ

岡山市高松有機無農薬野菜 生産組合みどり会

有機農業・環境
保全型農業の部

中国四国農政局長賞

団体名：岡山市高松有機無農薬野菜
生産組合みどり会
所在地：岡山県岡山市

面積：1.7ha
構成員：14人
取組品目：有機野菜

取組の紹介

【土づくりのための取組】

- 土壌診断を実施して、過剰な堆きゅう肥や有機肥料の施用を抑制している。
新規ほ場では、緑肥の栽培によって、早期の畑地化、施設内ほ場では、ソルゴー等を栽培し、茎葉を持ち出すことで、塩類集積対策を図っている。



塩類集積対策のソルゴー栽培

【地球温暖化抑止や生物多様性保全などの取組】

- 農薬（天敵を除く）を一切使用せず、耕種的防除、物理的防除、生物的防除技術を駆使して、病害虫対策を行っている。
 - ・ 耕種的防除：抵抗性品種・抵抗性台木の利用、輪作の実施など
 - ・ 物理的防除：防虫ネット、誘引資材、忌避資材の設置など
 - ・ 生物的防除：天敵の利用



物理的防除（トンネル被服）

【生産工程の見える化等の取組】

- 有機 JAS 農産物に関する格付けを適正に実施するため、生産工程管理者（代表者）や業務規約（組織内の取り決め事項）などを定めている。
また、作業記録等を認証機関に提出し、調査・監査を受け、生産計画や格付出荷記録なども認証機関に報告している。

【面積拡大に向けた取組】

- 有機農業に興味を持っている就農希望者に対して、短期間の農作業体験研修を行っている。
平成 23 年以降、県の「就農促進トータルサポート事業」を活用し、6 名の新規就農者を確保。
新規就農者が新たな農地を借り受けることで、今後も栽培面積の拡大が見込まれる。



実務研修（出荷調整作業）の風景